

contents

[コラム]

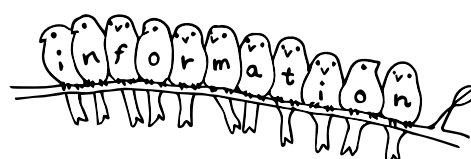
情報処理学会における「情報」
教育の推進
…位野木万里

[解説]

PBL Summit
—与えられる教育からの脱却—
…岩本智裕

[解説]

情報システムの源流で求められる人材
—今こそ日本の発展に役立つ情報システムを—
…細川泰秀

基
般 Column

情報処理学会における「情報」教育の推進

複雑・高度化する現代の情報社会において「情報」に関する教育を適切に実践していくことは重要である。本会には「情報」教育を検討する場として情報処理教育委員会がある。本委員会は、技術や関連事業の振興に寄与するため、カリキュラム考案、教育指針とその実施方法の検討・実施・評価等を進めている。本委員会の傘下には 10 個のサブ委員会があり、その内訳は、情報処理技術の分野別に、コンピュータ科学 (CS)、情報システム (IS)、ソフトウェアエンジニアリング (SE)、コンピュータエンジニアリング (CE)、インフォメーションテクノロジー (IT)、一般情報 (GE) の 6 委員会、対象学校別に高専と初等中等向けの 2 委員会、そして、アクレディテーション委員会、技術士委員会である。

本年度、本委員会が注力している活動の 1 つに、大学入試科目への「情報」の導入推進がある。2013 年度に改訂された新学習指導要領にそった教育を受けた高校 1 年生は 2016 年に大学入試を迎えることになる。そこで、2016 年の各大学入試を 1 つの目標に、入試科目としての「情報」の採用を推進している。本委員会では、前述の 10 の委員会に加えてさらに「情報入試ワーキンググループ」を設置して、情報教育の達成度合いを適切に評価するために、どのような問題や試験方式が妥当かを検討し、その成果として具体的な入試問題を試作し、すでに 2013 年 5 月 18 日に第 1 回模擬試験を実施した。2014 年 2 月 22 日に第 2 回目の模擬試験を予定しているところである。なお、先日、政府の教育再生実行会議より現行の大学入試センター試験を見直し、達成度テストを導入することが提案された。本委員会では、このテストと「情報」入試の関係も積極的に議論していきたい。

筆者自身は企業内の研究所でソフトウェア生産技術の研究開発を担当してきた。これまでの経験から、情報社会の発展には「情報と情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方を身につけること」や、「情報機器やネットワークを適切に駆使して情報を収集、処理、表現できるようにすること」等の習得が重要であり、それにはほかの教科の延長線上ではなく、一定の水準の「情報」の教育が不可欠だと実感し、本委員会の活動の重要性を再認識したところである。情報社会における「情報」教育の在り方に対しては、情報技術の発展を支えてきた本会が存在感を示すべきである。「情報」教育を望ましい方向に導けるように、会員一人ひとりのお力添えをいただきたい。

位野木万里 (東芝ソリューション (株) 生産技術センター/本会教育担当理事)

ロゴデザイン ● 中田 恵 ページデザイン・イラスト ● 久野 未結